

ステータス:	終了	開始日:	2007/07/01
優先度:	通常	作業時間の記録:	0.00時間
担当者:			
カテゴリ:			
対象バージョン:			
説明			
アクセント記法が登場。アルバム機構が強化			
関連するチケット:			
関連している Bug # 8: (V5.10)履歴機能の不具合		終了	2007/07/01 2007/07/01
関連している Release # 98: Muse V5.11		終了	2007/07/01 2007/07/01

履歴

#1 - 2014/01/06 22:09 - Redmine Admin

； 《Ver5.1 開発後記》 2007.06.30

；

； 今回は近年まれに見る短いスパンのバージョンアップになりました。前回新設の

； アルバム機構。自分でも早速活用し始めたのですが、皆さんから頂いた演奏デー

； タは珠玉の作品ばかりで、あれもこれもとお気に入り追加してしまい、気づい

； てみたら総計 6 0 0 曲にもなってしまいました。まあ母数が 6 千曲近くあるので

； すから高々 1 割のピックアップをしたとしても膨れ上がるのは無理ありません。

； そうなってくると 1 階層だけのアルバムでは整理が付きません。そこでアルバム

； の多段階層化に臨むことにしました。どうせなら階層段数に制約のない構造に挑

； みたくなります。当然の事ながら再帰呼出しプログラミングになる訳で、しかも

； タイトル行とアルバム行、ログ行が混在する実に難解な制御です。まあマクロ解

； 釈のシーケンス程ではありませんでしたが、それでもアルバム機構のデータ構造

； を大幅に見直すことになり、久々にエキサイティングな開発でした。開発期間中

； は頭が冴え渡っていたような気がします。ボケ防止のために一生プログラミング

； を続けよう、なんて思っていました。そんな訳でとても苦労したのですが、

； 出来上がってみれば前回のバージョンよりもプログラムが構造的で、そこに数学

； 的な美しい規則性さえ見出せる結果となりました。こういう結果を得る時にこそ

； 「完成した！」という実感を味わうものです。一般的にその製品やスペックの美

； しさに翳りのある状態とは、まだ過渡的で未完の状態なのかも知れません。

； 本格的な階層が組み立てられるアルバムとなったので、タイトル部と登録曲とが

； 入り乱れた状態になることも考えられます。そこで、タイトル部と登録曲の視認

； 性を高めるため、登録曲の先頭にグレーの三角形マークを添えることにしました。

； プログラム内部のデータ構造のみならず見栄えもなかなか美しいのでは、と自負

； しております。

； 既にリリースしてしまった履歴ファイル形式ですので、当然ですが上位互換を意

； 識しなければなりません。多分、ミュージアの皆さんの中には苦労して履歴ファ

； イルを編集された方もいることでしょう。その人たちに「もう一回作り直してく

； ださい」と言い放つ事はとても出来ません。上位互換を保って無限多段の階層を

； 表現するにはどうしたら良いのかいろいろ考えました。結果として、* の個数で

； 階層レベルを表現するという極めて単純な書式に辿り着きました。後で気づいた

； のですが、Wikiのセッション記述文法と類似しています。誰が築いた文法か知り

； ませんが、まだ見ぬその人と妙な親近感を感じてしまいました。

； 基本的に、アルバム機構の編集はエディタにて外側で行ってもらう方針でしたが、

やはり登録・除去という基本機能ぐらいはMuse起動上から実施したいと、利用者である私を感じ始めました。さりとて専用のダイアログが出てきたり、操作の手数がやたらと増えるような形式にたくありません。最低限のストロークで望みの機能が実効する洗練されたユーザインターフェースにしたいと思いました。初めは、履歴メニュー上でマウスを右クリックすると編集用のメニューが出てきて、そこで機能指定するといったタイプにしようと思いました。ところがメニュー上でポップアップさせる方法がどうしてもわかりません。メニューがキャプチャをグリップしている間、ウィンドウメッセージをどうしても取得できないのです。この技術的な限界に直面し、別の切り口の操作仕様に思考を向けたとたん、閃きが起こりました。右クリックしたメニュー上の場所がタイトル部なのか演奏曲部なのかで、利用者が登録と除去のどちらを望んでいるのかを一意に決められることに気づいたのです。まさに「必要は発明の母、障壁は閃きの父」とでも申しましょうか。結局、1クリックだけで登録も除去もできる快適な機能となりました。アルバム登録時、それが登録済みの曲の場合は二重登録しないように考慮しました。しかし、この二重登録ガードに引っかかる場合、マウス右ボタン押下に対してまったくの無反応となります。利用者の指示に対してコンピュータ側が何もエコーバックしてこないのは、挨拶しても無然としている愛想の悪い人に会ったようで実に不愉快です。さりとて、いちいち「登録致しました」というメッセージを出すのでは、意味も無く礼儀にこだわる執事に追い回されている様な堅苦しい気分になります。そこで対象曲のグレー三角マークを黒く強調するエコーバックを思い付きました。控えめでありながら手応えのある反応です。他ではあまり見かけない、ユニークなマンマシンインターフェースを実現できたと思っています。この開発で苦労したのは、その黒く強調したマークを元に戻すタイミングでした。Windows が管理している制御メッセージを解析し、独自ステータス管理でこっそり戻すという綱渡りをしています。

今回のアルバム登録・除去の機能提供に伴い、前回muse.iniのパラメータで提供したLGS(アルバムからの選択時に履歴を更新する/しない)の機構を撤廃しました。曲の履歴が残ることで、誤った除去オペレーションをしてもすぐに登録し直せることに気づいたからです。履歴が、一種のUNDOバッファとしての役割も発揮するという訳です。一方で、そもそもアルバム中心で履歴エリアは不要と考える方のために、履歴メニューにおける表示曲数(LGM)にゼロを指定できるようにもしました。加えて、muse.logのセーブタイミングをMuse終了時のみに変更し、データロード時やアルバムの登録・除去時の負荷を低減することにしました。

アルバム機構の強化が中心の今回のバージョンアップでしたが、あと2つ小さな強化を加えています。前回、テンポラリフォルダに展開されたロード曲は、ウィンドウタイトルを@で縮退表示させるようにしましたが、hiroさんから所詮Museデータを格納管理しているフォルダパスが長いと意味を成さず、演奏時間が確認できないことを指摘されました。当然と言えば当然なのですが、今まで誰からも指摘がなかったので、まあなんとか大丈夫なのだろうと高をくくっていたのです。やはり付け焼刃では駄目ですね。対応をいろいろ考えた末、初期化ファイルにパラメータ(DWT)を新設することにしました。このパラメータ設定で、ウィンドウタイトルにフォルダ自体を表示しないようにすることができます。

もう一つは、アクセントという指定を追加したことです。これは長年実装したいと考えていて延び々々になっていた文法強化です。アクセント値には負値も指定できるようにしたので、いわば逆アクセントといった面白い演奏表現も可能です。開発上苦労したのは、和音やコードそして再現表記などとの組み合わせ問題です。表面上の機能は単に一過的に音を強くするだけなのですが、複数の音が鳴る場合、元の強弱値に復帰するタイミングを制御するのは結構大変でした。仕様としては、アクセント量をフィンガー単位に保持し、省略記法も提供することで、今までのMuse記法コンセプトに従った統一感のあるものにできたと思っています。完成したアクセント指定。特にパーカッションのメリハリに効果があるのではないかと私は期待しています。この新文法が、皆さんのMusingのお役に立てれば幸いです。

#2 - 2014/01/06 22:11 - Redmine Admin

- トラッカー を Bug から Release に変更

#3 - 2014/01/08 09:10 - Redmine Admin

- 題名 を Muse V5.1 から Muse V5.10 に変更